



愛知県立医学専門学校の運動会（附属図書館医学部分館所蔵）

ツについても読者の皆さんと一緒に考える
ことができればと思います。

一 戦前の高等教育機関とスポーツ

◆ 欧米スポーツ文化の輸入

日本のスポーツは、開国以来その多くが、在留外国人や招聘外国人^{しょうへい}、帰国留学生によって欧米から輸入されました。欧米のスポーツ文化は、高等教育機関でいち早くふれることができました。高等教育機関の卒業生は、スポーツ文化を赴任地へ、特に中等・初等教育機関へと伝えていきました。スポーツ活動は、一九世紀後半から二〇世

紀初頭（明治二〇～三〇年代）には、中等学校の生徒や教職員の校友会を中心に普及していきましました。各地の初等・中等教育で運動会が開催され始めるのもこのころです。

◆ イベントの「運動会」から組織としての「運動会」へ

当時の大学には、体育実技として受講するような正課体育はありませんでした。しかし学生の自発的なスポーツ・運動は奨励されていきました。スポーツは、学生の結束を高めるよい機会となっていました。「運動会」ということばは、帝国大学（東京大学）創立直後の一八八三年に御殿下運動場でおこなわれた学生の陸上運動会（「競走及其他ノ競遊会」と、翌年に隅田川でおこなわれた水上運動会（「走舸組大競漕会」）が語源となり、スポーツ大会の呼称として使われるようになりました。毎年実施される帝国大学の水上・陸上運動会をマネジメントする機関として一八八六年に「帝国大学運動会」が設立しました。「帝国大学運動会」は、毎年運動会を開催し、学生に対して各種スポーツ用具の貸し出しサービスをおこなっていました。帝国大学の「運動会」は、全国的にも珍しく一九三四（昭和九）年に財団法人化して、同好の士の集まりによる運動クラブとそれを束ねる会となりました。

明治中期には、東京帝国大学以外に、一八九六年に高等師範学校（現筑波大学）「運動会」が、一八九二年に「慶応義塾体育会」が設立され、スポーツの学内戦や対校競技会が開催されるよ

うになりました。これらの「運動会」は、学内スポーツ大会を開催する現在の名古屋大学体育会の役割とも類似します。

◆国際試合と大学のスポーツ

一九一二年に、オリンピックの参加と国民体育の発達をめざして大日本体育協会が設立されました。国内のスポーツ選手権や国際競技大会に出場するアスリートは、高等教育機関でスポーツをしていたエリート学生でした。一九一二年ストックホルム・オリンピックの選手選考会では、九一名中九〇名が高等教育機関を中心とした学生でした。スポーツが、上流階級の身分的な制約を強くもつていたことや、高等教育機関に進学しなければスポーツ活動を続けて競力を向上させる環境がなかったからです。大日本体育協会の「競技者資格」は、車夫、郵便配達夫、牛乳配達夫、魚屋挽子ひきこなど職業上筋力トレーニングになるような職業従事者の参加を認めていませんでした。一般的に企業に所属するアスリートが、大学所属のアスリートを凌駕するのは戦後のことです。

◆運動部のコーチング・スタッフ

のちに名古屋大学に受けつがれる高等教育機関では、外国人教官や帝国大学のアスリートた

ちが指導をしていました。第八高等学校では、一九二三年に招聘しやうひんされた米国人パークヒルが陸上競技部、庭球部、藍球部らんきゅうぶを、またジョンソンが排球部を指導しました。またオリンピックメダリストの南部忠平や、第二回極東オリンピック大会でバスケットチームメンバーであった佐藤金一などの日本のトップアスリートが第八高等学校の指導をおこなった記録もあります。

名古屋高等商業学校には、一九二九年秋に講道館柔道の創始者、嘉納治五郎が講演のため来校し、講演後には柔道部を指導しています。また蹴球部しゅうきゅうぶには、大正一五年にのちに日本サッカー協会会長となる野津謙が指導にきています。

◆スポーツの普及に貢献した運動部

戦前は高等教育機関がスポーツの普及に貢献していました。第八高等学校の運動部は、近県の中等学校を集めた大会を主催し、地域のスポーツの普及もおこなっていました。四高戦（現金沢大学）に勝てない陸上競技部は、東海地方の中等学校大会を主催し、すぐれた中学生を集めていました。庭球部は近県中等学校庭球大会を、水泳部は一九三五年に中部日本中学校水上競技大会を開催しています。

名古屋高等商業学校では昭和初期に名古屋唯一の公認トラックであつた陸上競技場を外部団体の運動会にかしていました。また剣道部、柔道部、野球部、庭球部、水泳部が、中等学校を



名古屋医科大学の野球部（江崎計三氏提供）

集めて競技会を開催し、スポーツの普及の一役を担っていました。

◆名古屋帝国大学と運動部

戦前の一九三九年に発足した名古屋帝国大学は、名古屋医科大学を引き継いだ医学部と理工学部（昭和一七年に理学部と工学部に分離）からなっていました。医学部は鶴舞キャンパスにあり、明治から続く運動部でスポーツ活動がおこなわれていました。理工学部は、一九四三年の東山キャンパスの開学まで仮校舎として愛知県立第一中学校（現旭丘高等学校）を使用していました。歴史の浅い名古屋帝国大学は、東京帝国大学や京都帝国大学のように戦前の大学スポーツをリードする存在ではありませんで

した。しかし戦後に名古屋大学に合流する第八高等学校、名古屋経済専門学校（名古屋高等商業学校の系譜）、岡崎高等師範学校では活発にスポーツがおこなわれていました。

◆医学部学友会の運動部

現在でも医学部運動部があるように、医学部はスポーツ・運動組織である学友会を組織していました。

一九〇〇年に医学部の前身の愛知県立医学学校で同窓会が設立されました。発会式は、市内東練兵場での秋季大運動会に先立っておこなわれました。同窓会は、運動部、雑誌部、図書部、会計部の四部制でした。運動部には、陸上運動部と水上運動部がありました。陸上運動部には柔剣部、野球部、庭球部、弓道部の四部があり、銃剣部は一九一四年に陸上運動部から分離しました。いっぽう水上運動部には、短艇部と水泳部の二部がありました。短艇部は、一九〇一年に市立名古屋商業学校短艇競漕に出場し、愛知県立第一中学校を破ったのが始まりです。

一九〇〇年に始められた陸上運動会では、ランニング、庭球、野球、柔剣道、綱引きなどの多くの運動競技がおこなわれていました。その後、各運動部が独立してランニング中心の陸上運動会になります。余興や各種売店、仮装行列や独特の競技（解剖競争、綱引競争、診断競争、内科競争、調剤競争などの趣味と実益を兼ねた競技）を見物しようと近県からも毎回数万

人もの観衆が集まっていました。娯楽の少ない当時では、エリートたちが繰り広げる一大スポーツ・運動イベントとして地域住民も巻き込んでいたようです。

一九〇九年、同窓会は愛知県立医学専門学校校友会と改称されました。一九二〇年の愛知医科大学創設にいたって旧校友会は愛知医科大学のそれに包含され、医学部校友会となりました。愛知医科大学時代には、山岳部、乗馬倶楽部、ホッケー部、射撃部、スキー・スケート部、漕艇部が創設されています。一九三一年に愛知医科大学は官立名古屋医科大学へ移管されますが、校友会は「名古屋医科大学鶴天学友会」として継承されています。名古屋医科大学時代には自動車部、帆走部が新たに加えられました。

◆第八高等学校の運動部

一九〇八年に開校した第八高等学校は、創立当初から校友会が設けられました。一九一八年の創立一〇周年記念祭では、運動会、相撲大会、野球大会などがおこなわれています。またそのころは学寮対抗、校内スポーツ大会がさかんにおこなわれました。大島義脩初代校長は、選手制度をとらず試合には有志を募って出場していました。選手制度が承認されたのは、運動を奨励する芝田徹心校長になった一九二二年のことです。野球の対四高戦（現金沢大学）は、芝田校長が四高出身ということもあり始まりました。それを機会に応援団も結成されました。

八高の運動部は輝かしい戦績をおさめています。八高には、野球部、陸上競技部、水泳部、漕艇部、柔道部、排球（バレーボール）部、藍球部（バスケットボール・関東と関西のバスケットボール界が統合するまでは籠球ろうきゅうと藍球らんきゅうが使用された）、蹴球（サッカー）部、庭球部、弓道部、剣道部、相撲部、卓球部、応援部、体操クラブ、山岳部、自動車部（機甲班）がありました。

しかしスポーツのさかんな八高も戦時体制には勝てませんでした。一九四一年には校友会が改組されて第八高等学校報国団となり、運動部の活動も縮小もしくは停止になりました。一九四三年には運動競技会はすべて延期となり、対四高や対三高（現在の京都大学）のような一部の対抗戦がおこなわれるのみでした。一九四四年には球技はすべて廃止になりました。

◆八高の活躍

漕艇部は一九一〇年に創部されました。選手制度の導入にともなって、一九二三年に、対七高（現鹿児島大学）戦が始まります。この七高戦は一九二七年に雨で流れ、その後は対校レースから優勝レースに切り替わりました。また一九二八年から京都帝国大学主催の全国高等学校優勝大会が瀬田川で開催されるようになりました。八高は第一回、第二回大会と連覇しています。同大会は一九三〇年から、京都帝大と東京帝大の合同主催となり、固定席のボートは京都



対四高戦 名古屋駅前での両校応援団
 (左手が八高、右手が四高。中央で応援団が握手)
 (『写真集 旧制四高青春譜』第四高等学校同窓会(1986)所収)

帝大が瀬田川で運営し、滑席のボートは東京帝大が隅田川で運営することになりました。

八高は滑席のボートでおこなわれる全国高校エイト大会で、第一回大会から第三回大会まで三連覇しています。一九三三年からは東京帝国大学、早稲田大学、慶応大学に混じり日本の最高レベルであった一高(現東京大学)が参加することになります。八高は、一九三五年には一高を破り優勝をおさめています。「前畑がんばれ！」の一九三六年ベルリン・オリンピックには東大クルーが日本代表として出場していますが、そのなかの中川春好は八高漕艇部OBでした。

水泳部の歴史は、野間遊泳部時代、初

期競泳部時代、プール建設時代、黄金時代、伝承時代、戦時暗黒時代、戦後にわけられます。一九〇八年に学生が野間で水泳をしたのが野間海水浴場の起こりとされています。水泳部は日本泳法の神伝流が流儀でした。当時はプールがなかったため、野間海水浴場やため池で泳いでいました。

一九二四年、パリ・オリンピックが開催されました。そのころ東大に進学した先輩によってクロール泳法などが伝授され、水泳部では、泳法の変化がありました。一九二七年秋、八高教室に二五メートルプールが完成しました。その後、競技会成績も好調となり、全国高等学校水上競技大会では三連覇を飾っています。

排球部は、一九二三年に愛知一中出身の学生が輪になってパスを始めたのが最初です。当時、排球は一般に普及していませんでした。そこで小学校や中学校を相手に対戦し、Y・M・C・Aの大会や美津濃運動具店（現ミズノ）主催の大会に出場していました。しかしその実力は、第八回極東オリンピック大会東海地方排籃球予選に参加するほどのものでした。当時はバレーボールもバスケットボールもマイナーなスポーツであったため、二つの種目が同時に開催されています。一九二八年にインターハイが開始され排球部は、早くも第二回大会で優勝しています。

庭球部は、一九〇九年に結成されました。当時は軟式で京都帝大主催の大会に参加していま

す。一九一七年から一九二一年にかけて日本人がテニスの国際舞台で活躍したこともあって、一九二二年に日本庭球協会が設立されました。国際大会の影響で一九二四年からは京都帝大主催の大会でも硬式が採用されるようになりました。

◆名古屋高等商業学校の運動部

一九二一年開校の名古屋高等商業学校は、その年の一月に学友会が結成されました。最初に設立された部には、総務部や文芸部とともに剣道部、柔道部、弓道部、陸上競技部、野球部、庭球部、蹴球部がありました。当時は選手制度がなく、生徒はすべての部に所属していました。陸上競技部は、一九二一年秋に市内で駅伝大会を開催したことが記録されています。市民に学生の意気をしめしたイベントだったようです。一九二三年の第一回東海高専大会では八〇〇メートルリレーで優勝もしています。

野球部は徐々に実力をつけ、一九二九年にミシガン大学との国際試合も開催しています。翌年には、南満州鉄道や大連実業団と対戦するために中国大陸に遠征しています。さらに一九三一年には予選で法政大予科、一高に勝利して東京地方代表となり、甲子園での優勝大会では山口高商、立命館大予科を破り高専球界の全国制覇を達成しています。

水泳部は、一九二四年の秋の市内高専水上大会に優勝していますが、部としての体制が整っ

たのは翌年のことです。当時の水泳部にはプールがなく、覚王山や八事山の池で練習をしていました。中京地区に初めて七本松のプールが建設されたのは、東西の地区にくらべて遅い一九二七年のことでした。その後水泳部は七本松のプールを拠点として練習をおこない、三年後の第二回全国高商連盟大会で五種目で記録を更新して、総合得点で優勝しました。入賞者には、一九三二年のロサンゼルス・オリンピックの一〇〇メートル背泳で優勝、晩年には国際オリンピック委員会副会長として活躍する清川正二がいます。

相撲部は一九二四年春、陸上競技部から独立して正式に学友会の運動部として認められました。同年の土俵開きには横綱常の花、大関大の里、前頭鬼風が招待され、常の花が土俵入りをおこなっています。この年は関東大震災の直後のために大相撲が名古屋で開催されていたためでした。この年には東海大会で優勝するとともに、明治神宮大会では団体三位にも入賞しました。大阪の浜寺でおこなわれた大阪毎日主催の大会では個人優勝者も出ています。

藍球の始まりは一九二三年頃とされています。当時、体育のパークヒルの指導により寮生の間で盛んにおこなわれていました。藍球部は、一九二八年に学友会の部として設立されました。同年五月にY・M・C・A主催の東海選手権大会に出場し、八高に敗れたものの準優勝しています。一九三〇年には高等専門学校藍球連盟が成立し、第一回リーグ戦では浜松工や八高を抑えて優勝を果たしています。



名古屋高等専門学校陸上競技連盟第1回競技会優勝(1926年)(経済学研究科所蔵)

蹴球部は、一九二五年に東海蹴球連盟設立と同時に加盟しました。第一回リーグは八高が優勝し、名高商は二位でした。しかし一九二七年春のリーグ戦では八高を破り優勝しています。

ラグビー部の起源は一九二六年一〇月になります。八高で開催された名古屋ラグビー対大阪毎日の試合に刺激を受けて、名古屋ラグビーから与えられたボールで練習を始めたのがきっかけです。昭和五年には東海代表として花園全国大会に出場しています。

◆岡崎高等師範学校の運動部

一九四五年四月、岡崎高等師範学校は四番目の高等師範学校として設置されました。

しかし第二次大戦末期で校舎を空襲で全焼したのち、終戦を迎えています。戦災、豊川への移転、生活の困窮という激動のなかで自然発生的に教職員学生の文化向上、生活福祉を目的とする自治会、校友会、共済会が生まれてきました。一九四九年にこの三つの組織がまとまり、学生会が発足しました。運動部は旧校友会から引き継がれ、学生会のなかにあります。運動部は、校内のレクリエーションをはじめとして大阪大学との競技もおこなっていました。

野球クラブは、一九四六年になんとか道具をそろえ、翌年には四師リーグ戦（東京高等師範学校、広島高等師範学校、金沢高等師範学校）で優勝を果たしました。

排球クラブは、唯一配給のあった一個のボールで始めました。一九四七年には東海大学バレーボール連盟の試合に参加しています。

庭球クラブは一九四六年度に発足しています。翌年には四師リーグで優勝もしています。

蹴球クラブは、開校半年後には誕生していました。当時はラグビー部と分離されておらず、裸足のままボールに戯れるような状態でした。その後、東京文理大（現筑波大学）から教官が着任して指導をおこなったことが記されています。

卓球クラブは一九四七年に寮食堂の片隅の古びた卓球台を使って始めました。

籠球クラブは一九四八年に始まりました。四師対抗戦では優勝もしています。翌年に名古屋大学学部、分校、八高、名経専とともに合同し、名大籠球クラブが発足しました。